PART1　置き字

一

置き字…意味はあるがそれ自体は読まない文字。書き下し文では書かない。

① **於・于・乎**＝前置詞の働き。

「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表し、動詞・形容詞の後に置く。

直後の送り仮名は「ニ・ト・ヨリ（モ）・ヲ」。

（例）賢ナル**於**隗（かい）ヨリ者、…

② **而**＝接続の働き。「順接・逆接」を表す。

文中…**読まない。直前に読む字に送り仮名を送る。**

「順接」＝**テ・シテ・ニシテ・テ・デ**

（例）召シテ二蘧伯玉（きょはくぎょく）ヲ一**而**貴ブレ之ヲ。

「逆接」＝**モ・ドモ・ニ**

（例）蘧伯玉賢ナルモ**而**不レ用ヒラレ。

文頭…**読む**（＝置き字ではない）。

「順接」＝しかう**シテ**・しか**シテ**

（例）**而**シテ吾ト与レ子之所ナリ二共ニ適スル一。

「逆接」＝しかル**ニ**・しかル**ヲ**・しか**モ**・しか**レドモ**

（例）**而**ルニ聴キテ二細説ヲ一、…

③ **矣・焉**＝**強意**の働き。**文末**にある。語気詞。

（例）我失ヘリ**矣**。

④ **兮**＝**整調**の働き。（**詩の中**でしか使わない）

（例）今遂ニ逝ケリ**兮**。

問一　「語夫人其実焉」の返り点のつけ方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　語㆓夫人其実㆒焉　　夫人と其の実を語る

イ　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや

ウ　語㆓夫人其実㆒焉　　夫人に其の実を語る

エ　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ

オ　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

問二　次の白文に、返り点をつけよ。

吾　已　作　薬　酒　待　之　矣　。

注　薬酒…毒薬を入れた酒。
　　之（これ）…ここでは「夫」のこと。

〈Memo〉

第４講 PART1 確認問題

①「任重而道遠。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　にんおもくしかうしてみちとほし。
イ　にんおもくしてみちとほし。
ウ　にんおもかれどもみちとほし。
エ　にんおもきよりみちとほし。

②傍線部ａ・ｂの働きの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「足レ食、足レ兵、民信レ之矣(a)。」
「力抜レ山兮(b)気蓋レ世。」

ア　ａ　強意　ｂ　順接
イ　ａ　疑問　ｂ　反語
ウ　ａ　強意　ｂ　整調
エ　ａ　反語　ｂ　整調

③　次の傍線部ア～エのうち、置き字ではないものを選べ。

「三人行、必有㆓我師㆒焉（ア）。」
「吾十有五而（イ）志㆓于（ウ）學㆒。」
「於（エ）㆓斯二者㆒、何先。」

④　傍線部「而」が逆接の働きであるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「曲㆑肱（ひぢ）而枕㆑之。」
イ　「追者果至、而不㆑及。」
ウ　「好㆑謀而成者也。」
エ　「棄㆑甲曳㆑兵而走。」

⑤　「君子欲㆘訥（とつ）㆓於言㆒、而敏㆗於行㆖。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　君子は言に訥にして、行に敏ならんことを欲す。
イ　君子は言に訥にして、而して行に敏ならんと欲す。
ウ　君子に於いては言を訥にし、行に於いては敏ならんことを欲す。
エ　君子に言は訥とし、行は敏にならんことを欲す。

第4講　PART1　解答

問一　ウ

問二　吾已作二薬酒一待レ之矣。

第4講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「而」は置き字。ここでは「～して」と順接の意味を表す。

② a「矣」は断定・強意の働きがある置き字。b「兮」は詩の中でしか用いられない置き字で、語調を整える働きがある。

③ 置き字は、文中または文末に置かれる。よって、文頭にあるエの「於」は置き字ではなく、「おイテ」と読む。

④ いずれも置き字。ア「肱（ひぢ）を曲げて」、ウ「謀を好みて」、エ「兵を曳きて」と直前の読む漢字に「テ」の送り仮名がつき、順接の働きをする。イは「至るも」と送り仮名を送り、「至ったが」という意味の逆接の働きをしている。よって、イが正解。

⑤ 問題文の「於・而・於」は置き字なので読まない。よって、イ・ウは不適。「於」は直後の送り仮名（「言に」・「行に」）に、「而」は直前に読む字に送り仮名（「訥にして」）を送る。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ エ　④ イ　⑤ ア